

横田のC-130J、戦略ロデオ2020を実施(1) *Yokota C-130J Tactics Rodeo 2020 (1)*

April 10, 2020

By Machiko Arita
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真1)4月3日、横田基地で実施された「C-130J戦略ロデオ」で、空中投下をする第36空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズ。

戦略ロデオは、想定した急な要請に対応する戦闘シナリオを通じて、乗員の戦闘能力と即応態勢をテストするために行う訓練である。



1

(写真2)指定の投下地点に低コスト低高度の物量投下を行う第36空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズ。

空中投下は、パイロットとロードマスターの正確かつ迅速にミッションを実践する能力をテストし、チームがインド太平洋全域における災害救援と緊急時の運用に継続的に対応できる準備をする貴重な訓練の機会となった。



2

(写真3)C-130Jスーパーハーキュリーズがバックでのタキシングをする間、パイロットと交信する第36空輸中隊ロードマスターのマークス・ライト軍曹。

バックでのタキシングは、パイロットを所定の場所に正確に誘導するロードマスターの能力をテストした。



3

横田のC-130J、戦略ロデオ2020を実施(2)

Yokota C-130J Tactics Rodeo 2020 (2)

April 10, 2020

By Machiko Arita
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真4)4月3日、横田基地で実施された「C-130J戦略ロデオ」で、航空医療搬送のシナリオを実践する準備をする第36空輸中隊ロードマスターのウォーレン・カディーム上級空兵(左)と第374運用支援中隊航空団兵器・戦略小隊長ティモシー・J・ジョンソン曹長(右)。

戦略ロデオのトレーニングを通して、参加した空兵たちは、ミッションの実践能力をテストし、強化するために設定された幾つもの訓練シナリオに直面した。



4

(写真5)航空医療搬送のシナリオを実践するため、C-130Jに担架のストラップを取り付ける第36空輸中隊C-130Jスーパーハーキュリーズのロードマスターのジェイミー・スアレス上級空兵(上)とアントニオ・パークス上級空兵(下)。

担架のストラップがあることによって、C-130Jおよびその乗員は、タイムリーに救命措置が必要な医療患者を安全に運ぶことができる。



5

(写真6)航空医療搬送のシナリオを実践するため、担架を固定するためのストラップを設置する第36空輸中隊ロードマスターのアンソニー・グリフィン上級空兵。



6